

令和7年度 徳島大学大学院創成科学研究科 博士前期課程

臨床心理学専攻 I期

入学試験問題

受験科目名：臨床心理学

【注意事項】

- 1 係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。
- 2 試験問題は、表紙（この紙）1枚、問題・解答用紙5枚の、合計6枚である。
- 3 解答開始後、各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。
- 4 問題は合計4問である。4問ともすべて解答すること。
- 5 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 6 配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その1

第1問 次の論文アブストラクトを読み、下の問1～2に答えよ。

著作権の関係により非公開

出典：Yanai, M., Aoyama, M., Kosugi, K., et al. (2024). Reliability and validity of the Japanese version of the Parenting Concerns Questionnaire. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 54, 797-804.

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その2

問1 下線部①，②の英語表記について日本語で専門用語を示し，それらの用語について簡潔に説明せよ。

①

--

②

--

問2 この研究ではどのような結果が得られたか。Results にみられる各分析を行った理由についても説明を加えながら，詳細に述べよ。

--

小 計	
-----	--

受験番号

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学 その3

第2問 心理学に関連する、次の語 1～20 とそれぞれ関連が最も深い語を、下の語群ア～ミのうちから一つずつ選び、該当する記号を解答欄に記入せよ。

- | | | | |
|--------------|-------------------|---------------------|--------------------|
| 1. 抑制性神経伝達物質 | 2. コード化した質的変数 | 3. フォーカシングの提唱者 | 4. オピオイドの副作用 |
| 5. 認知症の検査の一種 | 6. DSM に基づく構造化面接法 | 7. アレキシサイミア | 8. ボーダーラインパーソナリティ症 |
| 9. 発達検査の一種 | 10. 認知療法の創始者 | 11. 共同注意行動 | 12. 行動分析学の創始者 |
| 13. 不安尺度の一種 | 14. A. Bandura | 15. M.E.P. Seligman | 16. 炎症反応 |
| 17. 双極症 | 18. 機械学習 | 19. 信頼性 | 20. 単一事例実験計画法 |

語群

- | | | | |
|------------|------------------|-----------------|-----------------|
| ア. 疼痛 | イ. 眠気 | ウ. 剰余変数 | エ. ADAS |
| オ. 知覚的歪曲 | カ. 対人関係, 自己像の不安定 | キ. E.T. Gendlin | ク. 社会的関係の離脱 |
| ケ. γ-アミノ酪酸 | コ. WPPSI-III | サ. BDI-II | シ. コンピテンス |
| ス. CES-D | セ. W.R. Bion | ソ. グルタミン酸 | タ. A.T. Beck |
| チ. 感情の認識困難 | ツ. A. Ellis | テ. 学習性無力感 | ト. A. Adler |
| ナ. 自尊心の肥大 | ニ. ダミー変数 | ヌ. ABA 法 | ネ. B.F. Skinner |
| ノ. クーイング | ハ. 指さし | ヒ. GAD-7 | フ. 過学習 |
| ヘ. 社会的学習理論 | ホ. 平行検査 | マ. SCID | ミ. 離人感 |

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小 計

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻
臨床心理学 その4

第3問 心理学実験に関する、下記の問1～3に答えよ。

問1 心理学実験において設定される独立変数と従属変数について簡潔な具体例を挙げて説明せよ。

--

問2 心理学の研究手法の一つである実験室実験のメリットと問題点を述べよ。その際「生態学的妥当性」という用語を用いること。

--

問3 心理学実験における参加者間計画と参加者内計画について1要因3水準の実験を例に説明せよ。また、両計画の長所・短所を説明せよ。

--

小 計	
-----	--

受験番号	
------	--

徳島大学大学院創成科学研究科博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学 その5

第4問 次の文章を読み、下の問1～2に答えよ。

A は、臨床心理士指定大学院修士2年次の学生である。うつ病に対する認知療法に関心を持ち、専門学会主催の単発のワークショップや在住地の研究会などにも参加し、その理論と実際に学んできたが、クライアントに実施したことは無い。このほど、学内実習の一環として、学内の臨床心理相談室にて、「憂うつで、やる気が出ない」ことを主訴としたクライアントを担当することになった。インテーク面接において、当該クライアントは「以前から職場ではミスが多く、上司や同僚からミスを責められることが多かった。最近、気持ちが沈み、職場に行くのが億劫になった。ネットで調べると、憂うつな気分には「認知療法」という心理療法が有効と聞いた。「認知療法」をお願いしたい」と述べた。

問1 このような主訴を述べるクライアントに対して、A は、その後の面接において、何を聞く必要があるか、心理支援の技法の「適用」の観点から、述べよ。

--

問2 このような主訴を述べるクライアントに対して、A はどのような対応をとるべきか、「倫理」の観点から述べよ。

--

小計	
----	--

合計	
----	--